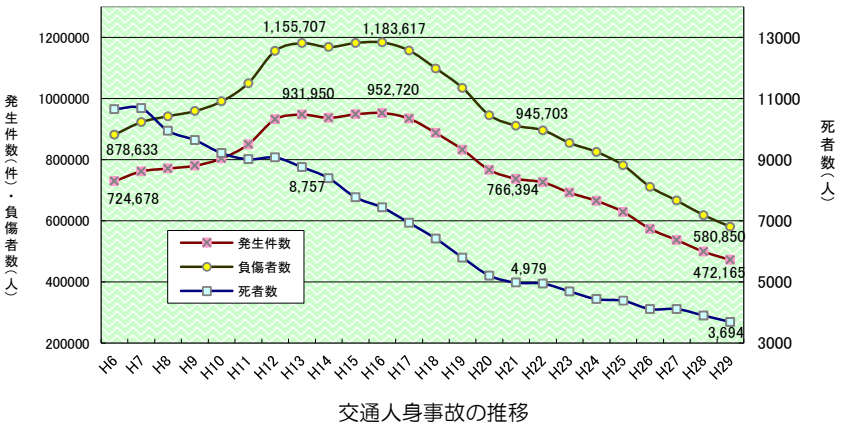


平成29年の自動車事故データをみる

この資料は、警察庁交通局による交通事故のデータをもとに、公益財団法人 交通事故総合分析センターがまとめた統計に基づいて作成しています。なお、データの対象は人身事故に限られています。

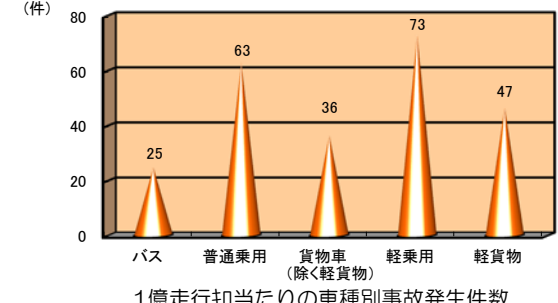
1. 全自動車事故の発生状況

■統計開始以来、死者数が過去最少となる

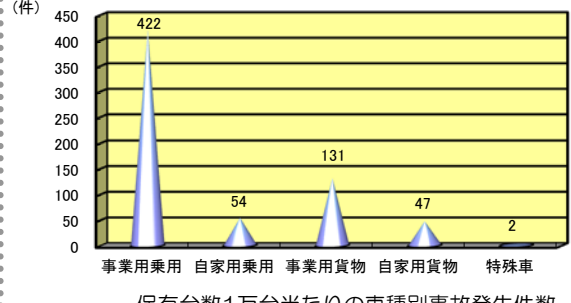


平成29年の交通人身事故発生件数は約47万2千件で、事故による死者数は約3千7百人、負傷者数も約58万1千人と、13年連続で減少しています。

また、死者数は、前年と比べると減少率が5.4%となっており、現行の交通事故統計となった昭和23年以降で最少となりました。



1億走行キロ当たりの人身事故発生件数を車種別にみると、軽乗用車が最も多く、普通乗用車、軽貨物車が続いています。



保有台数1万台当たりの人身事故発生件数を車種別にみると、事業用乗用車が最も多く、事業用貨物車が続いています。

■都道府県別の事故発生件数、負傷者数のワースト5は昨年と変わらず

※()内は昨年順位

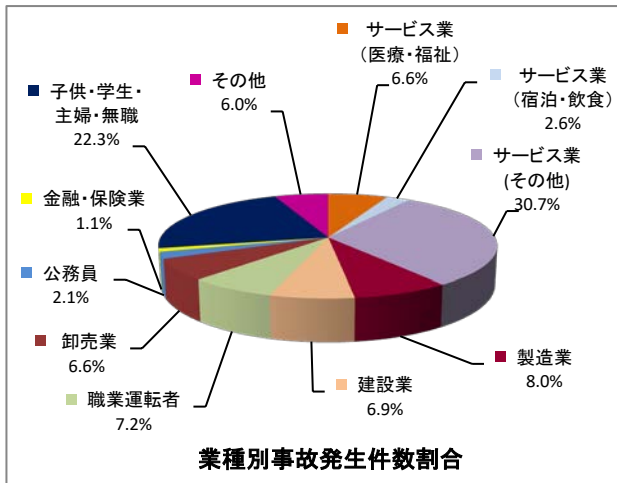
(1)交通事故発生件数 ベスト/ワースト5				(2)交通事故死者数 ベスト/ワースト5			
BEST	都道府県	発生件数	順位	BEST	都道府県	死者数	順位
1 (1)	鳥取県	965	1	1 (3)	島根県	17	1
2 (2)	島根県	1,282	2	2 (1)	鳥取県	26	2
3 (3)	福井県	1,549	3	3 (9)	高知県	29	3
4 (5)	高知県	1,790	4	4 (18)	秋田県	30	4
5 (4)	秋田県	2,034	5	5 (13)	石川県	34	5
1 (1)	愛知県	39,115	1	1 (1)	愛知県	200	1
2 (2)	大阪府	35,997	2	2 (7)	埼玉県	177	2
3 (3)	福岡県	34,862	3	3 (4)	東京都	164	3
4 (4)	東京都	32,763	4	4 (6)	兵庫県	161	4
5 (5)	静岡県	30,244	5	5 (2)	千葉県	154	5

(3)交通事故負傷者数 ベスト/ワースト5				(4)人口10万人当たりの交通事故死者数 ベスト/ワースト5			
BEST	都道府県	負傷者数	順位	BEST	都道府県	死者数	順位
1 (1)	鳥取県	1,162	1	1 (1)	東京都	1.2	1
2 (2)	島根県	1,485	2	2 (2)	神奈川県	1.6	2
3 (3)	福井県	1,761	3	3 (3)	大阪府	1.7	3
4 (4)	高知県	2,000	4	4 (11)	宮城県	2.2	4
5 (5)	秋田県	2,468	5	5 (4)	埼玉県	2.4	5
1 (1)	愛知県	47,832	1	1 (1)	福井県	5.9	1
2 (2)	福岡県	46,093	2	2 (8)	愛媛県	5.7	2
3 (3)	大阪府	43,585	3	2 (14)	山口県	5.7	3
4 (4)	静岡県	39,353	4	4 (20)	岡山県	5.1	4
5 (5)	東京都	37,994	5	5 (3)	香川県	5.0	5

都道府県別に発生件数、死者数、負傷者数をみると、ワースト5にはいずれも人口の多い都道府県が並んでいますが、人口10万人当たりの死者数でみると、人口の少ない県にも多いところがあります。

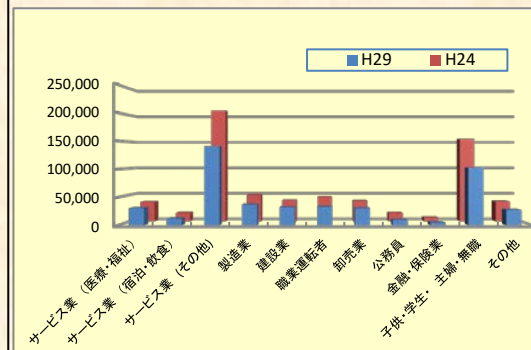
業種別、通行目的別、法令違反別は、第1当事者(当該交通事故における過失が重い者)のデータを用いています。
 なお、2ページ、3ページでは、第1当事者が不明なものは除いています。

■事故発生件数が最も多い業種はサービス業



平成29年中に人身事故発生件数の多い業種はサービス業、次に製造業と続いています。

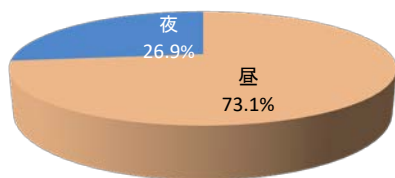
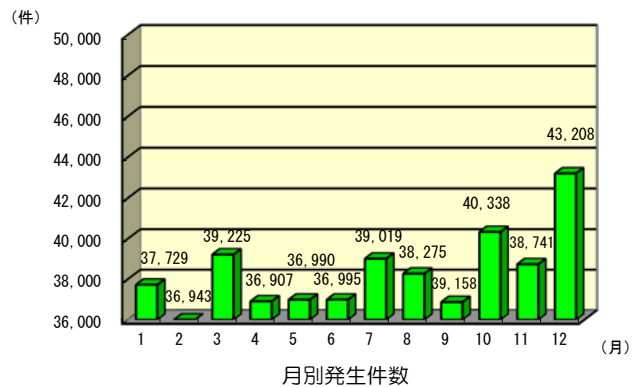
平成24年と平成29年の業種別の事故発生件数を比較してみると、医療・福祉および建設業は、他の業種に比べ減少率が低くなっています。



■月では12月、時間では昼、曜日では金曜日に比較的多く発生

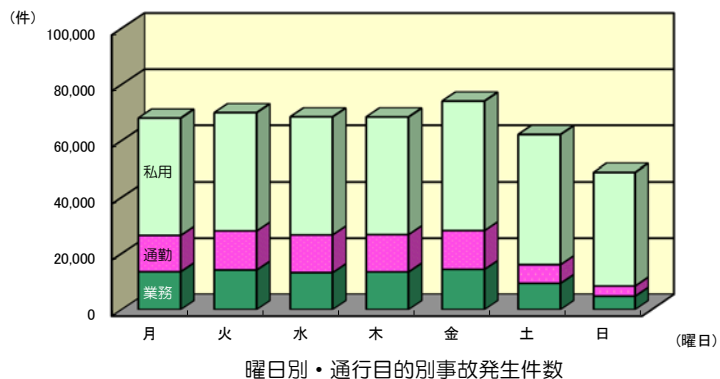
人身事故発生件数を月別にみると、2月が少なく、12月が多くなっています。

前年に比べ、7月、8月、11月、12月を除くすべての月で、発生割合が増加しています。

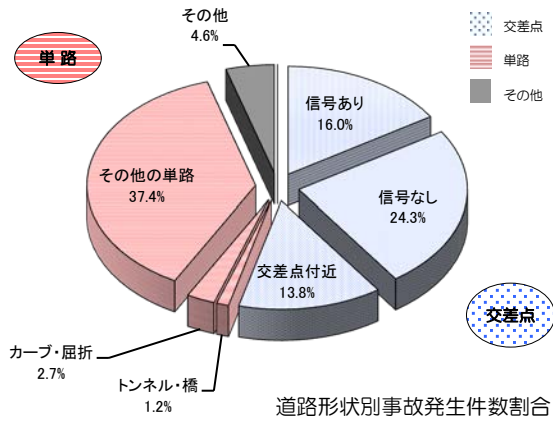


事故の発生時刻は、昼(日の出から日没まで)が約73%を占めています。ただし夜の事故は昼に比べて死亡につながる危険性が高くなっています。

人身事故発生件数を曜日にみると、平日では金曜日が多くなっています。業務目的では、金曜日、火曜日の順で多く発生しており、通勤目的では、火曜日が最も多く発生しています。

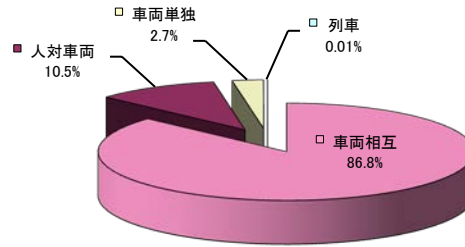


■交差点内の事故が半数以上で、車両相互事故が多い

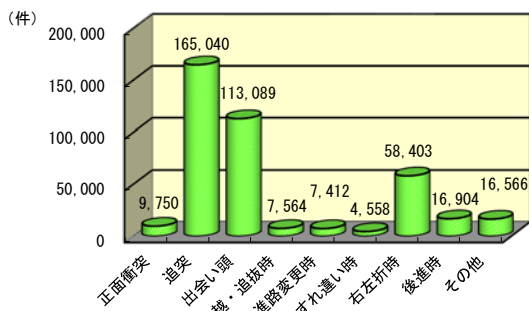


道路形状別では、交差点で約54%、単路で約41%となっており、その割合は前年とほぼ同じです。

事故類型では車両相互が約87%、人対車両が約11%、車両単独が約3%となっています。



事故類型別事故発生件数割合

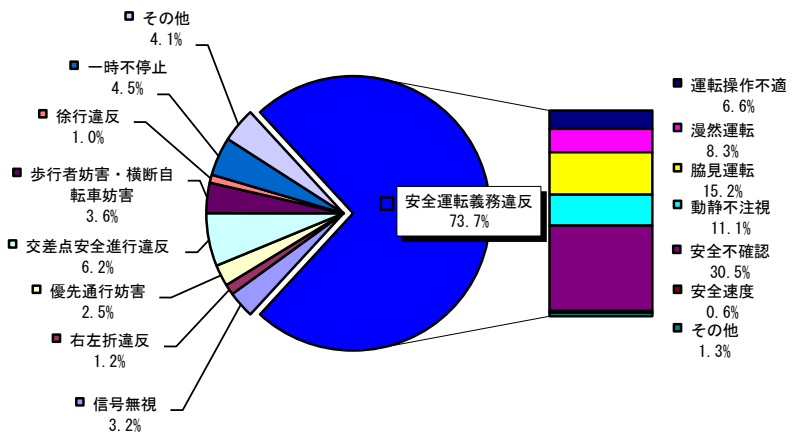


全体の約87%を占める車両相互事故についてさらに類型別にみると、追突(約41%)に続いて出会い頭(約28%)が多くなっています。

■法令違反別では、安全運転義務違反が約75%を占める

法令違反別事故件数をみると、安全運転義務違反が約74%で特に多く、交差点安全進行違反、一時不停止が続いています。

安全運転義務違反の内訳をみると約74%中、安全不確認が約31%と多く、脇見運転約15%、動静不注視約11%となっています。これらの事故は十分な注意を払って運転することにより防止できるものです。



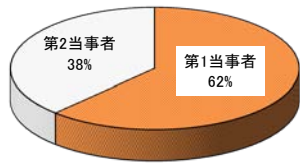
事故原因法令別事故件数割合

～安全運転義務違反とは～
 道路交通法70条のハンドル、ブレーキその他の装置を確実に操作し、かつ、道路、交通及び当該車両等の状況に応じ、他人に危害を及ぼさないような速度と方法で運転しなければならない」という規定に反した行為をいいます。事故が発生した場合において、速度超過や一時停止違反などの具体的な通行違反や義務違反が認められないときに限って適用されます。

2. 運転者の業務目的通行中の自動車事故発生状況

(第1当事者、第2当事者の全業種の業務通行中に限った事故のデータを用いています。)

■ 事故を自らの責任で起こさなくても、第2当事者になることも多い

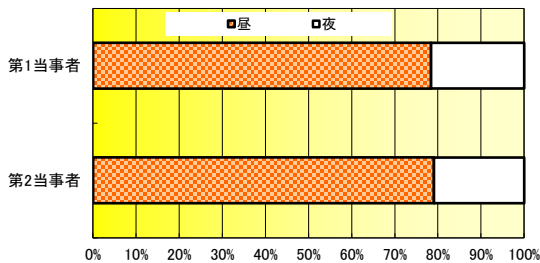
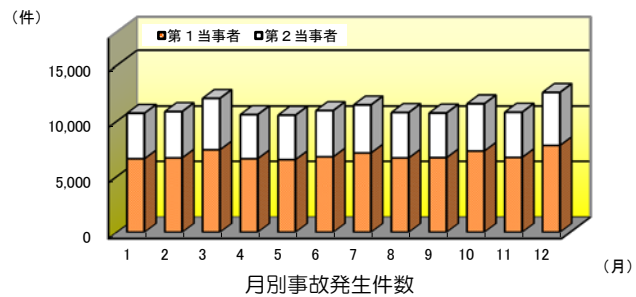


当事者種別事故発生件数割合

第1当事者、第2当事者の割合は前年とほぼ同じです。

■ 月では12月、時間では昼、曜日では金曜日に比較的事故が多い

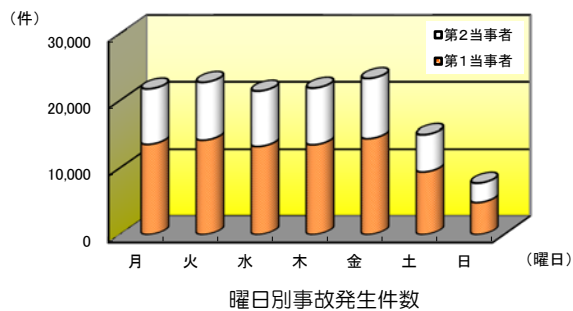
人身事故発生件数を月別にみると、12月が最も多く、5月が最も少なくなっています。例年3月、12月は、事故の多い月となっています。



昼夜別事故発生件数割合

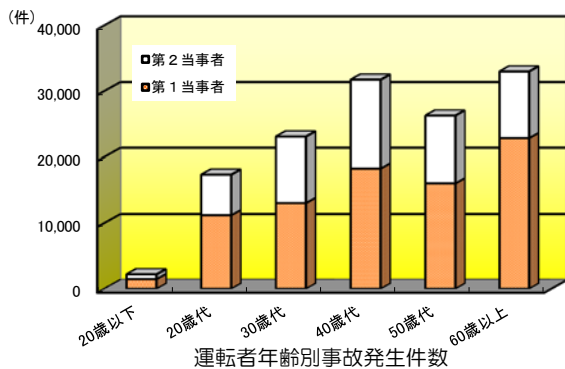
昼夜別事故発生件数の割合は前年とほぼ同じです。昼の事故が多くなっていますが、夜の事故も2割超発生しています。

事故発生件数を曜日にみると、平日は金曜日に事故が多く発生し、次に火曜日が多くなっています。



曜日別事故発生件数

■ 年齢別では、60歳以上の事故が多い

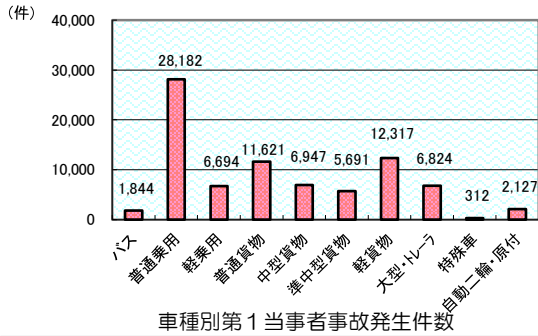


運転者年齢別事故発生件数

事故にあった運転者の年齢は60歳以上が最も多く、次に40歳代が多くなっています。

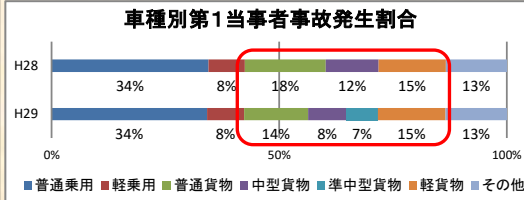
各年代の中で第1当事者の占める割合が最も多い年齢層は60歳以上、次に20歳以下と続きますが、それぞれの比率は、前年に比べ、逆転しています。

■車種別では、普通乗用と軽貨物が多い

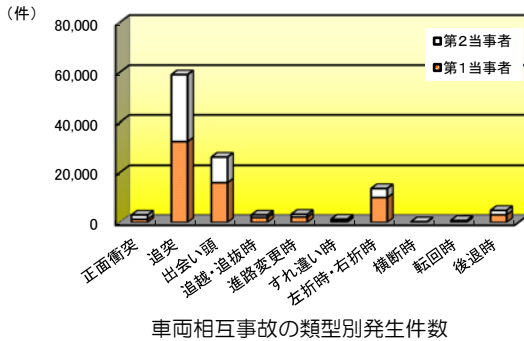
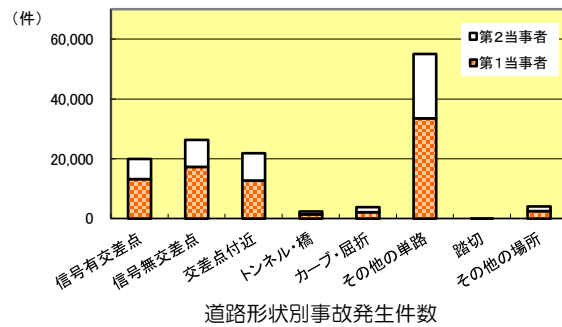
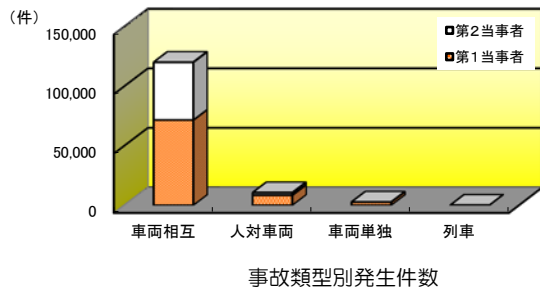


第1当事者が事故を起こした車種は、普通乗用が最も多く、次に軽貨物が続いています。

平成29年より、車種分類が変わり、貨物が普通・中型・軽の3分類から、普通・中型・準中型・軽の4分類に変わりました。



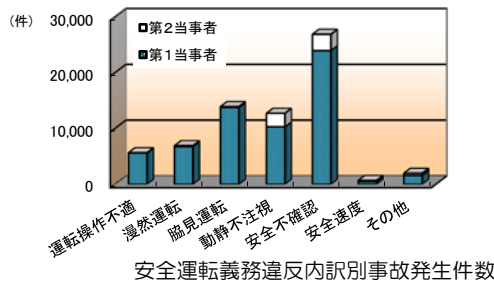
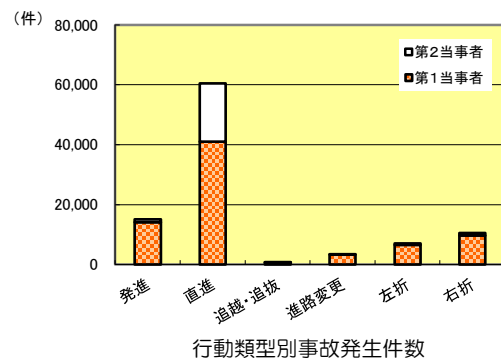
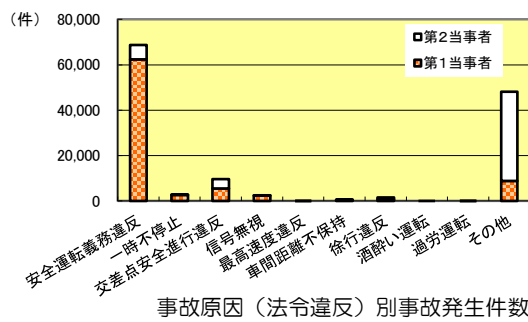
■車両相互事故の類型別では追突、道路形状別では交差点・交差点付近で事故が多い



全体の約90%を占める車両相互事故の類型別発生件数をみると、追突が最も多く、次に出会い頭となっています。追突以外の原因による発生割合は、前年と比べると、ほぼ同じか、わずかに増える傾向にあります。

また、道路形状別にみると、全体の事故の約51%は交差点・交差点付近で起こっており、特に交差点走行時は注意が必要です。

■依然、安全不確認など不注意による事故が多い



法令違反別に事故発生件数をみると、安全運転義務違反が半数以上を占めており、なかでも安全不確認による事故が最も多くなっています。この傾向は前年と同じです。依然不注意による事故が多くなっています。